

令和5年度 第3回  
希望郷いわてモニターアンケート

ひとにやさしいまちづくりに関する意識調査結果

令和5年10月  
岩手県保健福祉部地域福祉課

# ひとにやさしいまちづくりに関するアンケートの結果について

## I アンケートの趣旨

県では、「すべての人が個人として尊重され、自らの意思に基づき自由に行動し、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される地域社会の形成」を目指して、平成7年に「ひとにやさしいまちづくり条例」を制定し、誰もが利用しやすい建物、交通機関等の整備の促進や県民の方々に対するひとにやさしいまちづくりについての普及啓発を進めてきたところです。

本調査は、今後の県が進めるひとにやさしいまちづくりに関する施策の参考とするために実施しました。

## II 調査実施期間

令和5年8月21日(月) ～ 同年9月4日(月)

## III 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

## IV 調査対象

令和4、5年度希望郷いわてモニター 197名

## V 回答者数

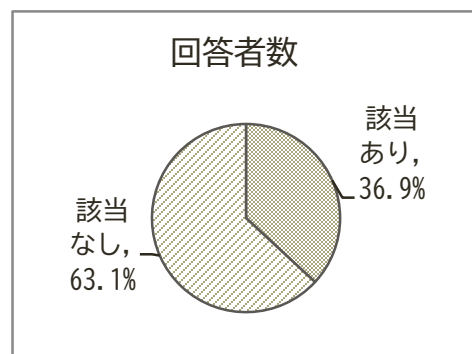
149名

## VI 回答率

75.6%

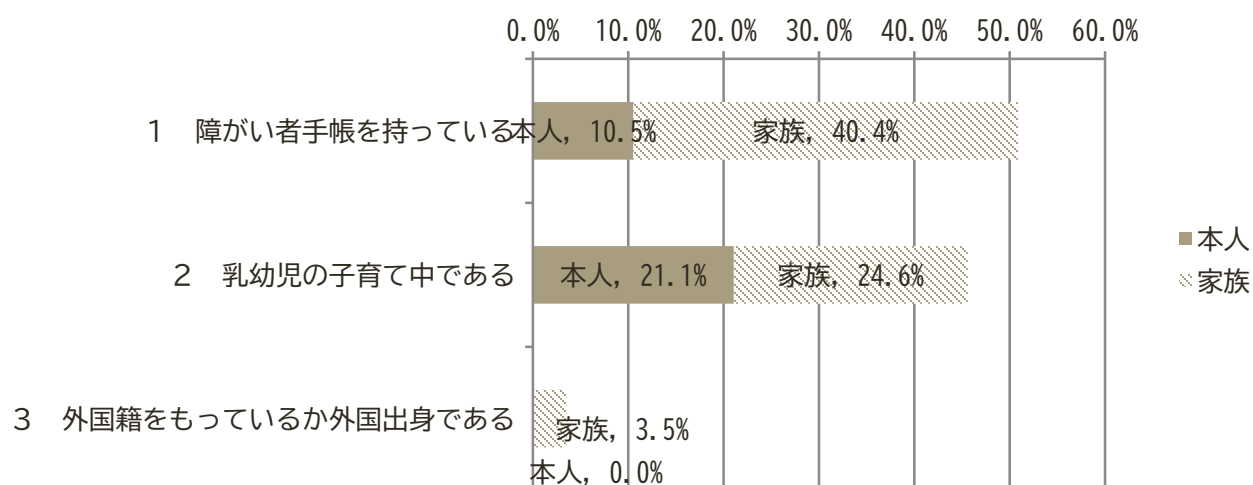
## 回答者の属性

	回答者数	比率
該当あり	55	36.9%
該当なし	94	63.1%
合計	149	100.0%



## <回答の内訳> (重複あり)

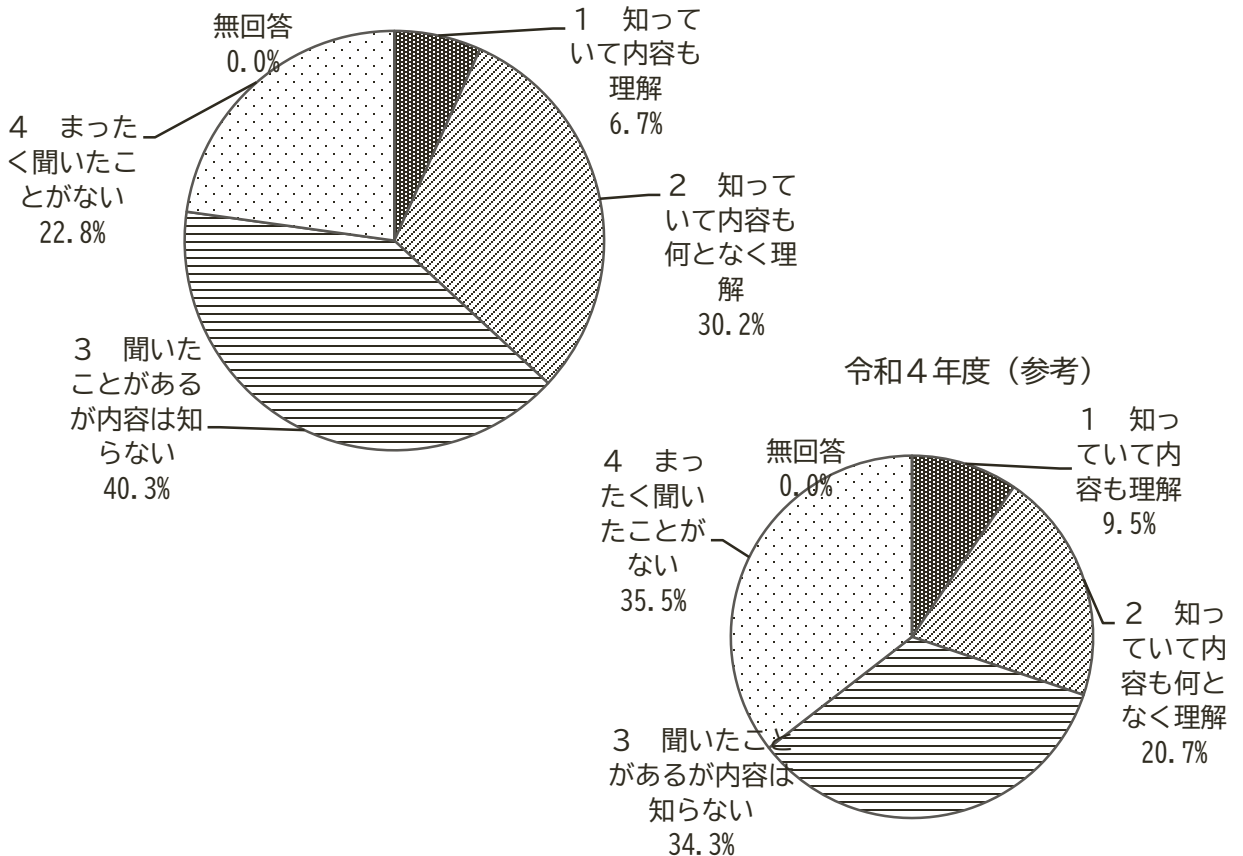
	本人		家族		計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
1 障がい者手帳を持っている	6	10.5%	23	40.4%	29	50.9%
2 乳幼児の子育て中である	12	21.1%	14	24.6%	26	45.6%
3 外国籍を持っているか外国出身である	0	0.0%	2	3.5%	2	3.5%
合計	18	31.6%	39	68.4%	—	—



# 問1

県の「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について、知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 知っていて内容も理解している	10	6.7%	16	9.5%
2 知っていて内容も何となく理解している	45	30.2%	35	20.7%
3 聞いたことがあるが内容は知らない	60	40.3%	58	34.3%
4 全く聞いたことがない	34	22.8%	60	35.5%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	149		169	



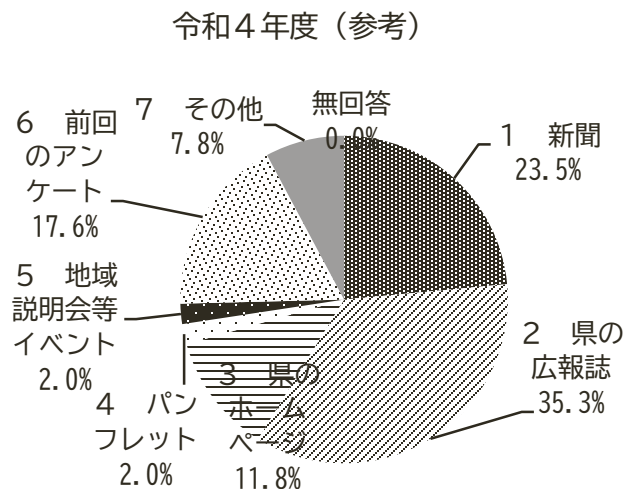
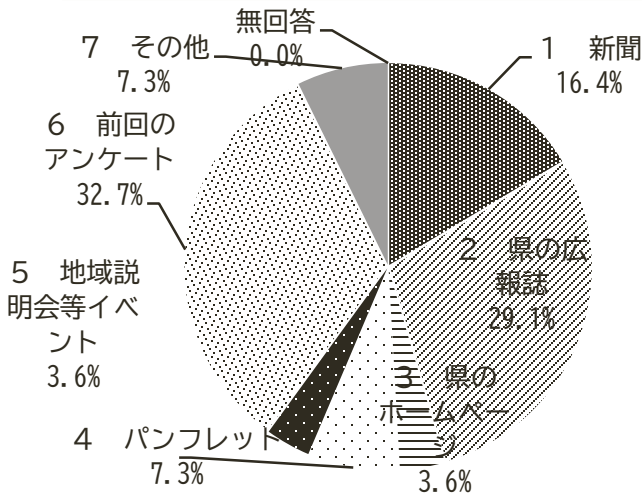
## 【調査結果】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針について知っていて内容も理解している方（「何となく理解している」も含む。）は36.9%となり、令和4年度と比較し、6.7%増加した。

## 問2

問1で①又は②を選択された方にお聞きします。「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について知ったきっかけは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 新聞	9	16.4%	12	23.5%
2 県の広報誌	16	29.1%	18	35.3%
3 県のホームページ	2	3.6%	6	11.8%
4 パンフレット	4	7.3%	1	2.0%
5 地域説明会等イベント	2	3.6%	1	2.0%
6 前回のアンケート	18	32.7%	9	17.6%
7 その他	4	7.3%	4	7.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	55		51	



### 【調査結果】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針を知ったきっかけとして、前回のアンケートと回答した方の割合が多く、今後も普及啓発を継続する必要がある。

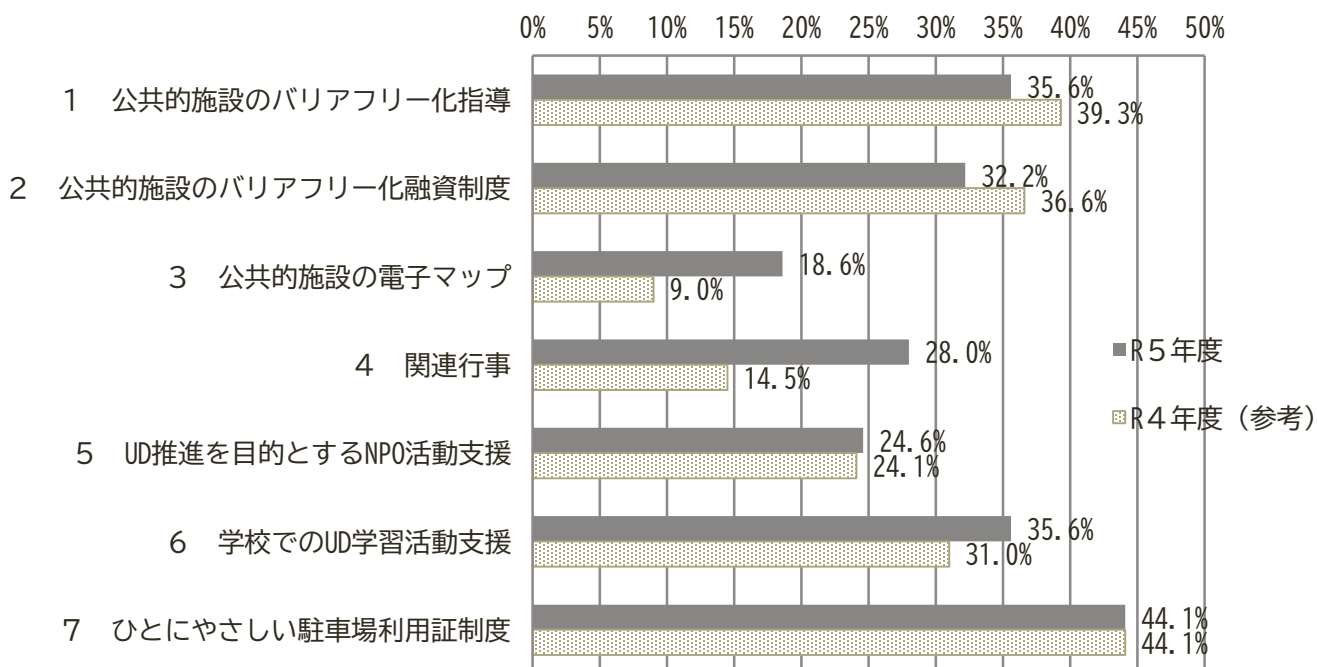
#### <7その他の内容>

- 行政の仕事
- 仕事柄
- テレビ

### 問3

県では、前記の条例に基づき、以下の事業を展開していますが、見たり聞いたりしたことのあるもの、利用したことのあるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 公共的施設のバリアフリー化指導	42	35.6%	57	39.3%
2 公共的施設のバリアフリー化融資制度	38	32.2%	53	36.6%
3 公共的施設の電子マップ	22	18.6%	13	9.0%
4 関連行事の開催	33	28.0%	21	14.5%
5 ユニバーサルデザイン推進を目的とするNPO活動支援	29	24.6%	35	24.1%
6 学校でのユニバーサルデザイン学習活動支援	42	35.6%	45	31.0%
7 ひとにやさしい駐車場利用証制度	52	44.1%	64	44.1%
(回答者実数計)	118		145	



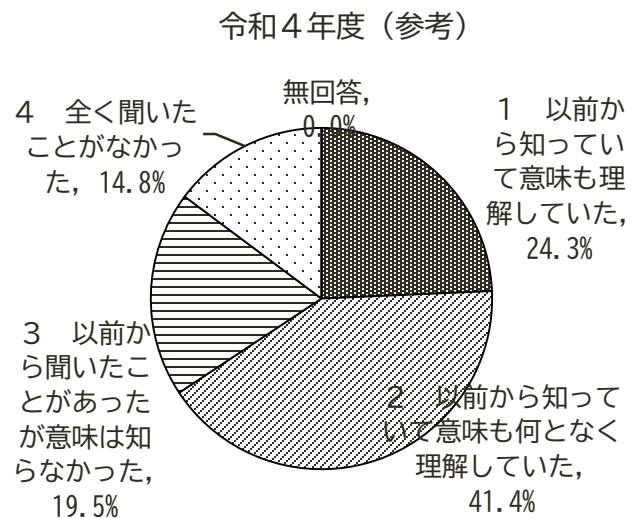
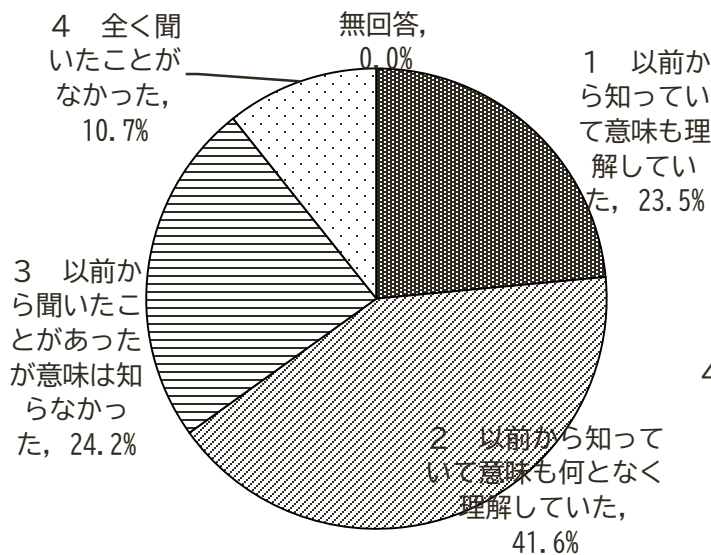
#### 【調査結果】

平成22年度から取り組んでいる「ひとにやさしい駐車場利用証制度」の認知度が44.1%と最も高く、次いで、「公共的施設のバリアフリー化指導」、「学校でのUD学習活動支援」が35.6%となっている。

## 問4

「ユニバーサルデザイン」について、本アンケートに御協力いただく時点では、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 以前から知っていて意味も理解していた	35	23.5%	41	24.3%
2 以前から知っていて意味も何となく理解していた	62	41.6%	70	41.4%
3 以前から聞いたことがあったが意味は知らなかった	36	24.2%	33	19.5%
4 全く聞いたことがなかった	16	10.7%	25	14.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	149		169	



### 【調査結果】

「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていて意味も理解している方（「何となく理解」も含む。）の割合は65.1%となり、令和4年度と比較して、0.6%減少した。

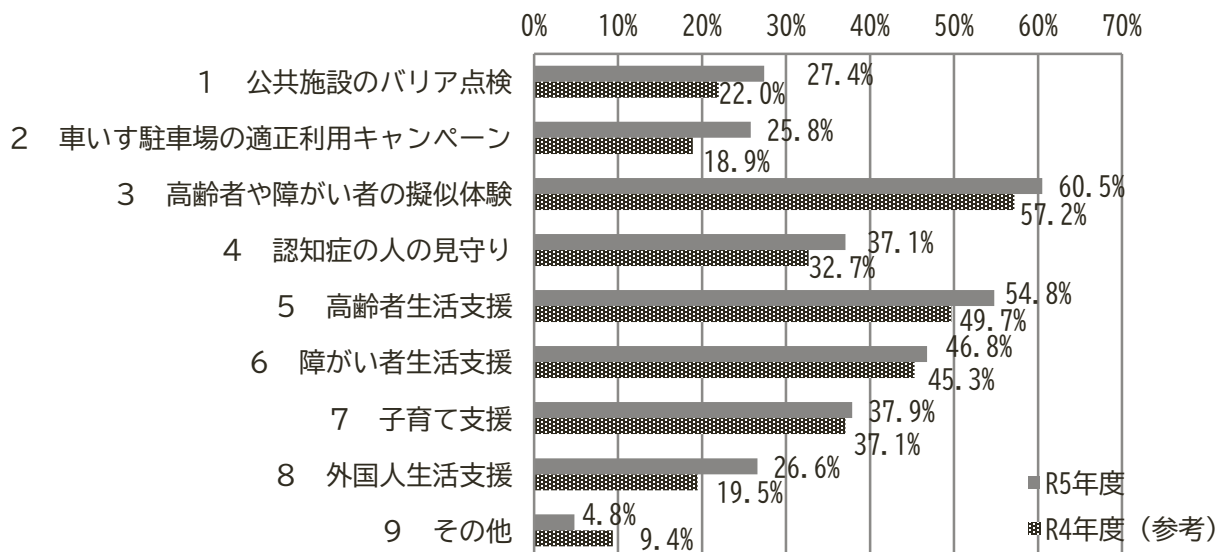
## 問5

以下の活動やその活動に取り組む民間団体・グループを見たり聞いたり、実際に参加したことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 公共施設のバリア点検	34	27.4%	35	22.0%
2 車椅子駐車場の適正利用キャンペーン	32	25.8%	30	18.9%
3 高齢者や障がい者の疑似体験	75	60.5%	91	57.2%
4 認知症の人の見守り	46	37.1%	52	32.7%
5 高齢者生活支援	68	54.8%	79	49.7%
6 障がい者生活支援	58	46.8%	72	45.3%
7 子育て支援	47	37.9%	59	37.1%
8 外国人生活支援	33	26.6%	31	19.5%
9 その他	6	4.8%	15	9.4%
（回答者実数計）	124		159	

### < 9 その他の内容 >

- 車椅子走行補助による観光地めぐり。
- 色んな活動がある事にびっくりした。
- 見たことも聞いたこともない。



### 【調査結果】

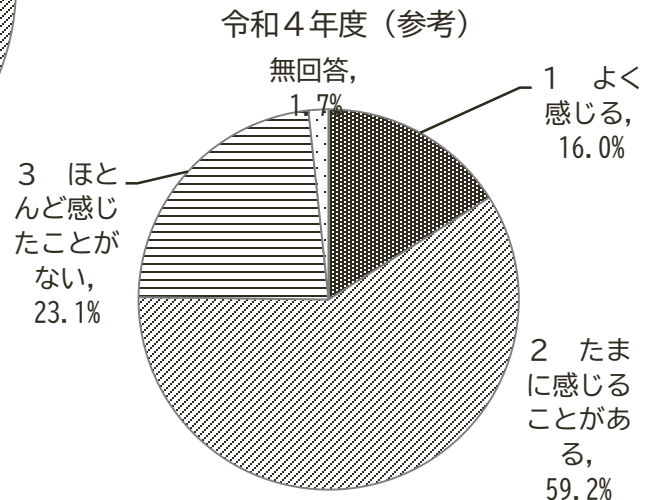
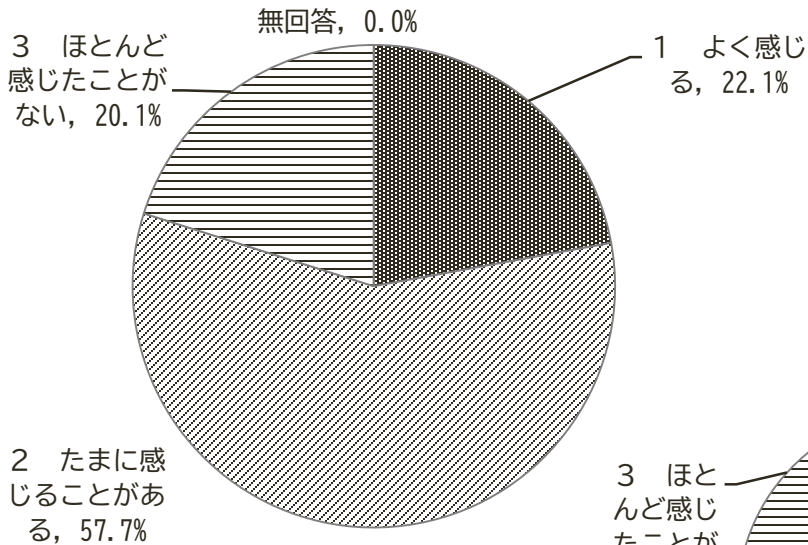
見たり聞いたり、参加したことがある割合が多いのは、「高齢者や障がい者の疑似体験」、「高齢者生活支援」、「障がい者生活支援」となっている。



## 問6

まちの中で「ハード」（公共的施設、道路など）を利用又は移動するときにはバリア（障壁）を感じることはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる	33	22.1%	27	16.0%
2 たまに感じることもある	86	57.7%	100	59.2%
3 ほとんど感じたことがない	30	20.1%	39	23.1%
無回答	0	0.0%	3	1.7%
合計	149		169	



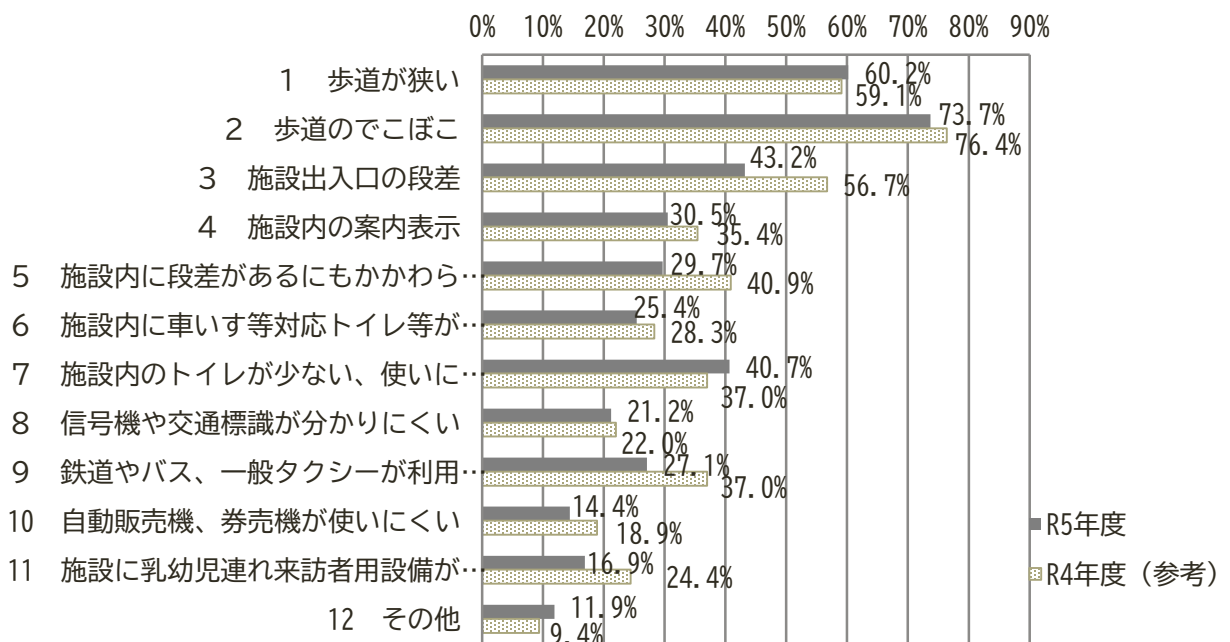
### 【調査結果】

「よく感じる」「たまに感じる**こ**がある」と回答した方の割合は、79.8%となり、令和4年度と比較して4.6%増加した。

## 問7

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じるのはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 歩道が狭い	71	60.2%	75	59.1%
2 歩道のでこぼこ	87	73.7%	97	76.4%
3 施設出入口の段差	51	43.2%	72	56.7%
4 施設内の案内表示	36	30.5%	45	35.4%
5 施設内に段差があるにもかかわらず、スロープ等がない	35	29.7%	52	40.9%
6 施設内に車椅子等対応トイレ等がない	30	25.4%	36	28.3%
7 施設内のトイレが少ない、使いにくい	48	40.7%	47	37.0%
8 信号機や交通標識が分かりにくい	25	21.2%	28	22.0%
9 鉄道やバス、一般タクシーが利用しにくい	32	27.1%	47	37.0%
10 自動販売機、券売機が使いにくい	17	14.4%	24	18.9%
11 施設に乳幼児連れ来訪者用設備がない	20	16.9%	31	24.4%
12 その他	14	11.9%	12	9.4%
（回答者実数計）	118		127	



### 【調査結果】

歩道（狭い、でこぼこ）にバリアを感じると回答した方が多く、歩道のでこぼこについては、73.7%の方がバリアと感じている。

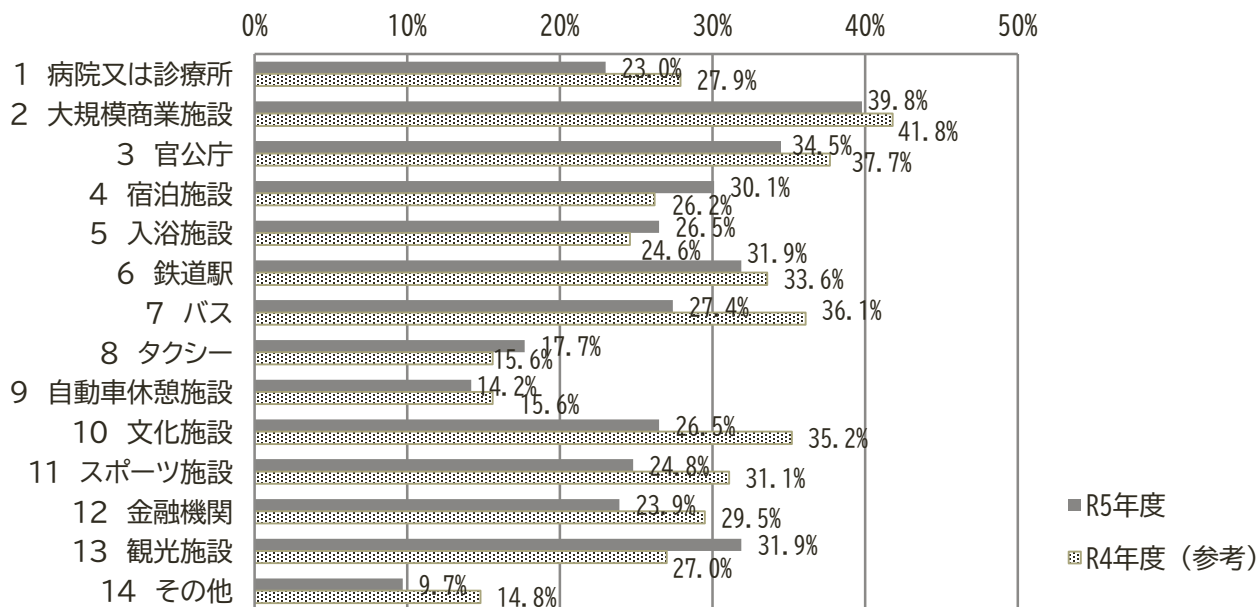
<12その他の内容>

- 近くに視覚障害者の研修施設があるのに冬の歩道はツルツルデコボコ。
- 新しく建てられたものはとても便利。古い建物が多いので介護と育児には少しバリアを感じる。
- 自販機で現金しか使えないとき
- 歩道の点字ブロックの補修がされていない。ポロポロで剥がれている。
- 歩道の真ん中に立つ電柱
- 交差点付近の30センチくらいの異様に狭い路側帯
- 入口段差解消のためのツルツルで少し傾斜のあるステンレス版
- 今時、障がい者オストメイトや車椅子どころか和式のトイレは使い方やり方も分からない人がいますよ。
- 古い館には和式トイレしかなく、しゃがめない！！使えない時がある（洋式を作ってください）。
- 街路樹の手入れがなくて、車が歩行者を認識できなくて、ぶつかりそうになったことがある。
- 1人でエレベーターに乗った車椅子の人がまだ出ないうちに扉が閉まりそうになり手伝ったことがある、エレベーターの開閉にも少し工夫が必要ではないか。
- 表示の字、案内板を大きく遠くからでも見えるように
- 歩道が途中でなくなっていたり、せまくて車イスの人は不便だろうなと感じている。
- 久々に病院を利用した所に、耳の遠い人は、呼ばれたことに気づきにくいだろうなと感じた。
- スロープが有っても、勾配が急な所がある。

## 問8

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じたことのある施設等を全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	26	23.0%	34	27.9%
2 大規模商業施設	45	39.8%	51	41.8%
3 官公庁	39	34.5%	46	37.7%
4 宿泊施設	34	30.1%	32	26.2%
5 入浴施設	30	26.5%	30	24.6%
6 鉄道駅	36	31.9%	41	33.6%
7 バス	31	27.4%	44	36.1%
8 タクシー	20	17.7%	19	15.6%
9 自動車休憩施設	16	14.2%	19	15.6%
10 文化施設	30	26.5%	43	35.2%
11 スポーツ施設	28	24.8%	38	31.1%
12 金融機関	27	23.9%	36	29.5%
13 観光施設	36	31.9%	33	27.0%
14 その他	11	9.7%	18	14.8%
(回答者実数計)	113		122	



### 【調査結果】

大規模商業施設、官公庁、鉄道駅、観光施設でバリアを感じると回答した方の割合が多い。

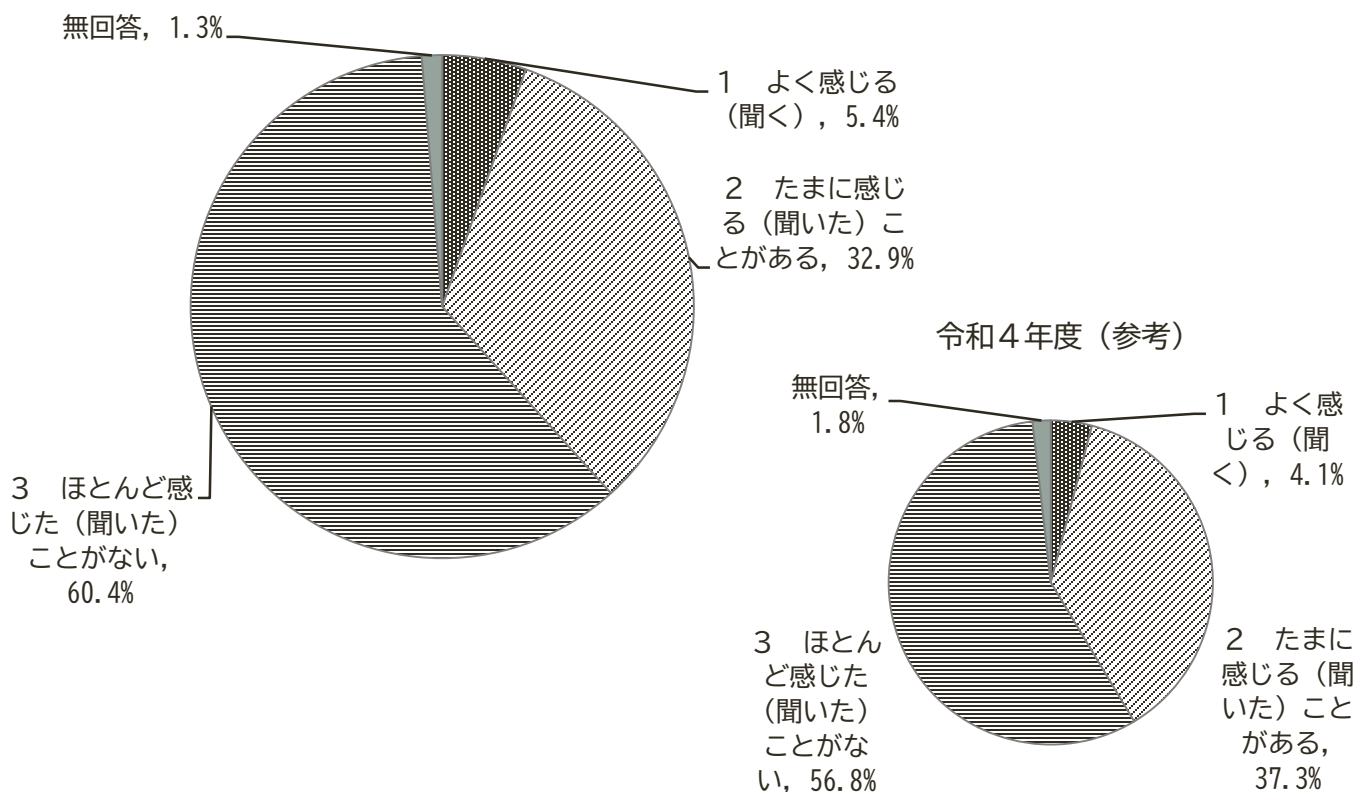
<14その他の内容>

- 寺院・神社
- 車で行った場合、駐車場から入口までの距離が長い。高齢者のための裏口とかあると助かる。
- 飲食店
- 歩道
- 道路
- 店舗入口
- トイレ あっても数が少ない。壊れたらどうしますか。
- 道路が狭く歩きにくい。草だらけで歩きにくい。
- 歩道と車道の段差
- 不自然な点字ブロック
- バスセンターの食堂
- 矢巾のやはぱーくの調理室も車椅子の人は狭くて動きづらいと聞きました。
- 歩道（道路）を乳母車を使用すると段差があり、持ち上げて移動しなければならない場所が多い（ほとんど）。自走式車いすを使用している人も見かけるが、その人たちも不便を感じているのではないかと思う。

## 問9

公共的施設の「ソフト」の対応（従業員による車椅子用トイレやスロープ等バリアフリー設備の適切な管理、車椅子の適切な取扱い等介助の技術、言語による意思疎通が困難な方に対する適切な応対等）で不便さや不満を感じたこと、あるいは身近な方から不便さや不満を聞いたことはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる（聞く）	8	5.4%	7	4.1%
2 たまに感じる（聞いた）ことがある	49	32.9%	63	37.3%
3 ほとんど感じた（聞いた）ことがない	90	60.4%	96	56.8%
無回答	2	1.3%	3	1.8%
合計	149		169	



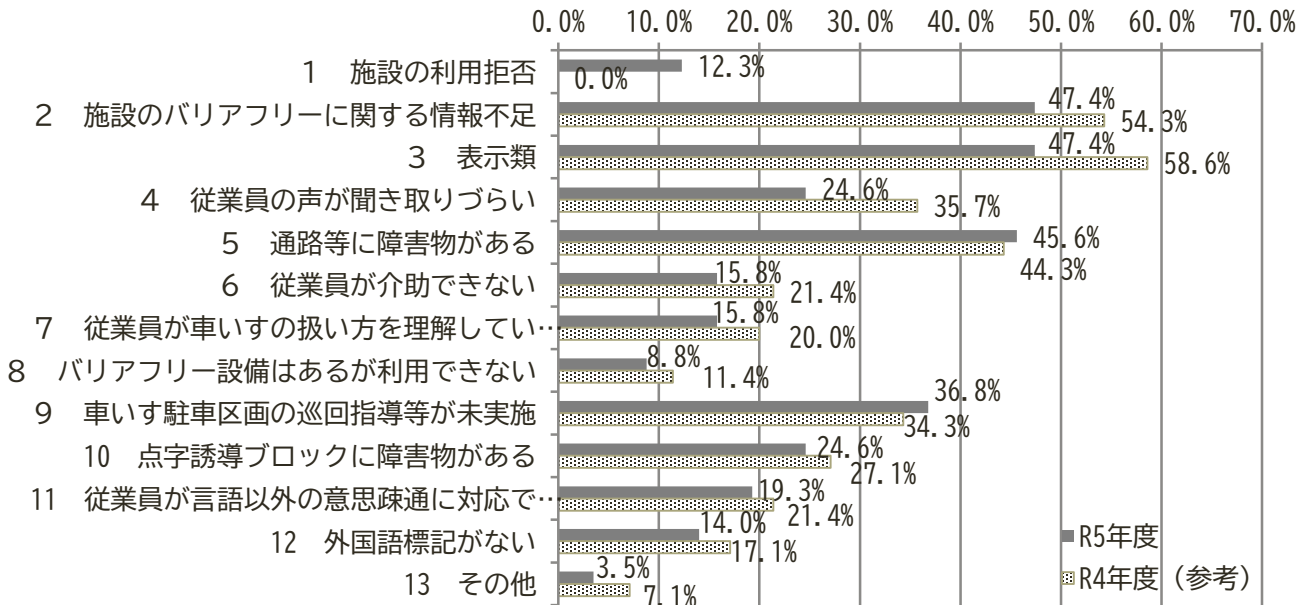
### 【調査結果】

「よく感じる（聞く）」、「たまに感じる（聞いた）ことがある」と回答した方の割合が、38.3%となり、令和4年度と比較して、3.1%減少した。

## 問10

問9で①又は②を選択された方にお聞きします。「ソフト」の対応に不便さや不満を感じた（身近な方から聞いた）ことはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 施設の利用拒否	7	12.3%	0	0.0%
2 施設のバリアフリーに関する情報不足	27	47.4%	38	54.3%
3 表示類が見づらい	27	47.4%	41	58.6%
4 従業員の声が聞き取りづらい	14	24.6%	25	35.7%
5 通路等に障害物がある	26	45.6%	31	44.3%
6 従業員が介助できない	9	15.8%	15	21.4%
7 従業員が車椅子の扱い方を理解していない	9	15.8%	14	20.0%
8 バリアフリー設備はあるが利用できない	5	8.8%	8	11.4%
9 車椅子駐車区画の巡回指導等が未実施	21	36.8%	24	34.3%
10 点字誘導ブロックに障害物がある	14	24.6%	19	27.1%
11 従業員が言語以外の意思疎通に対応できない	11	19.3%	15	21.4%
12 外国語標記がない	8	14.0%	12	17.1%
13 その他	2	3.5%	5	7.1%
(回答者実数計)	57		70	



### 【調査結果】

「施設のバリアフリーに関する情報不足」、「表示類が見づらい」、「通路等に障害物がある」と回答した方の割合が多い。

<13その他の内容>

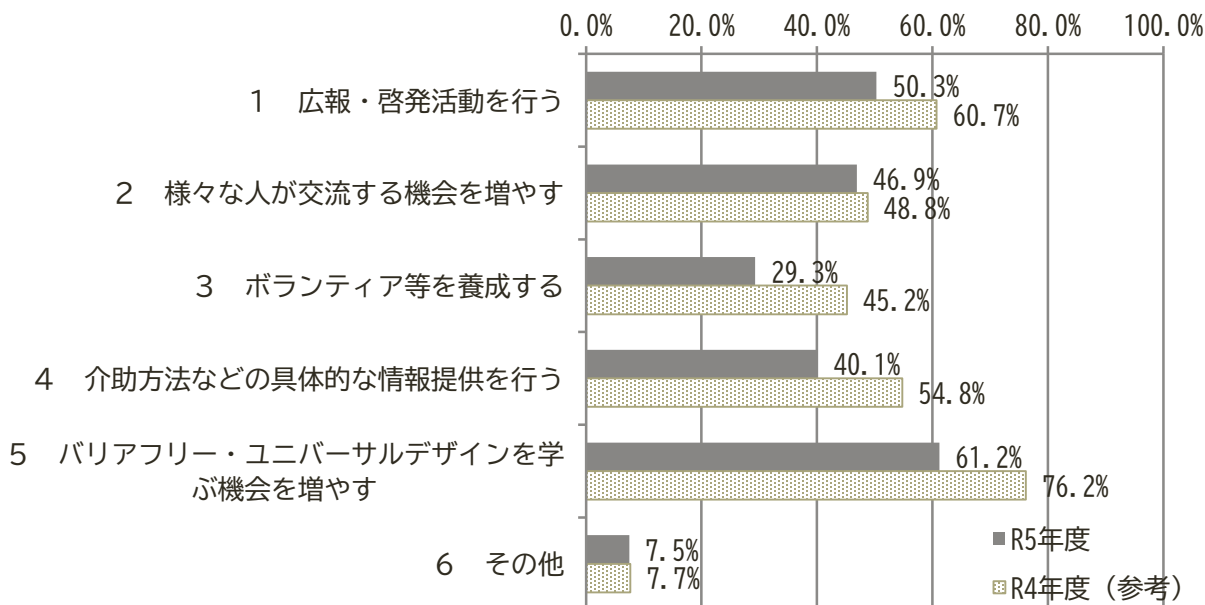
- ハードは整備されているが、それを従業員等が適切な対応や使いこなしができていない事例も多いのではないかと思う。
- 祖母の介護を始めたところ車イスの取り扱い方が分からずスーパーで畳んである車イスを広げようと思ったが、なかなか開かず、店員さんが気付いて手伝ってくれた。一人だったらもっと時間がかかったと思う。



## 問11-1

「ひとにやさしいまちづくり」では、建物（ハード）や人の対応など（ソフト）だけではなく、様々な人々の立場を理解し、適切な行動を取ることができるよう、人を思いやることのできる心の醸成が大切であると考えられますが、心の醸成を進めるために、どのような取組が必要だと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	74	50.3%	102	60.7%
2 様々な人が交流する機会を増やす	69	46.9%	82	48.8%
3 手助けするボランティア等を養成する	43	29.3%	76	45.2%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	59	40.1%	92	54.8%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	90	61.2%	128	76.2%
6 その他	11	7.5%	13	7.7%
回答者実数	147		168	



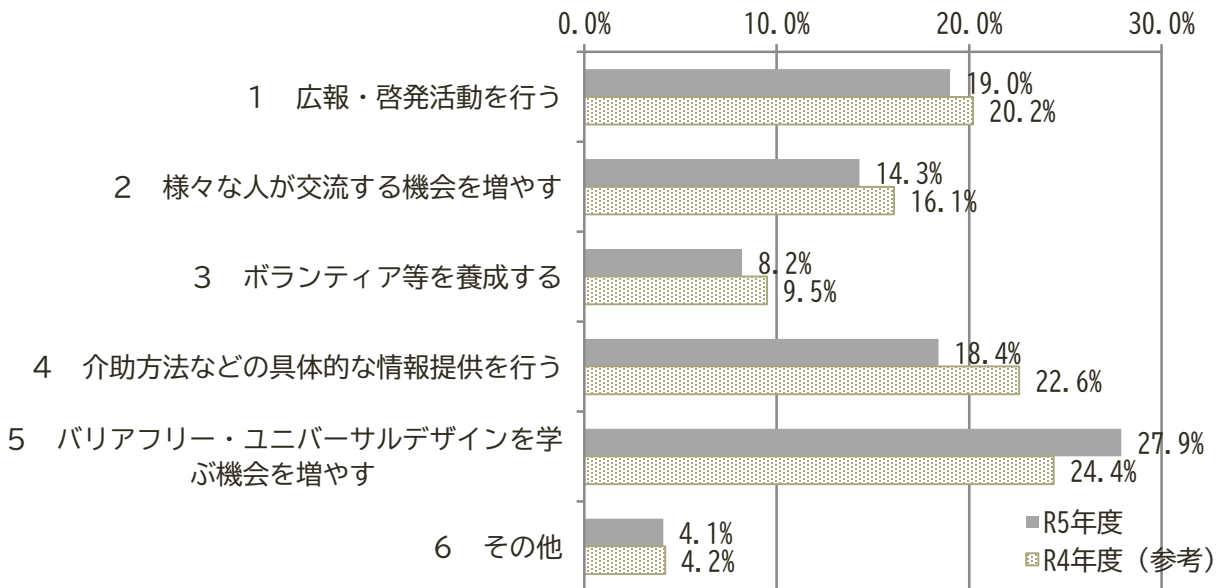
### 【調査結果】

「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」、「広報・啓発活動を行う」、「様々な人が交流する機会を増やす」の順に、回答した方の割合が多い。

## 問11-2

さらに、その中で最も重要だと思われるものを次の中から1つ選んでください。

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	28	19.0%	34	20.2%
2 様々な人が交流する機会を増やす	21	14.3%	27	16.1%
3 手助けするボランティア等を養成する	12	8.2%	16	9.5%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	27	18.4%	38	22.6%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	41	27.9%	41	24.4%
6 その他	6	4.1%	7	4.2%
無回答	12	8.2%	5	3.0%
合計	147		168	



### 【調査結果】

「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」が最も多く27.9%となり、次いで、「広報・啓発活動を行う」、「サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う」の順に、回答した方の割合が多い。

## < 6 その他の内容 >

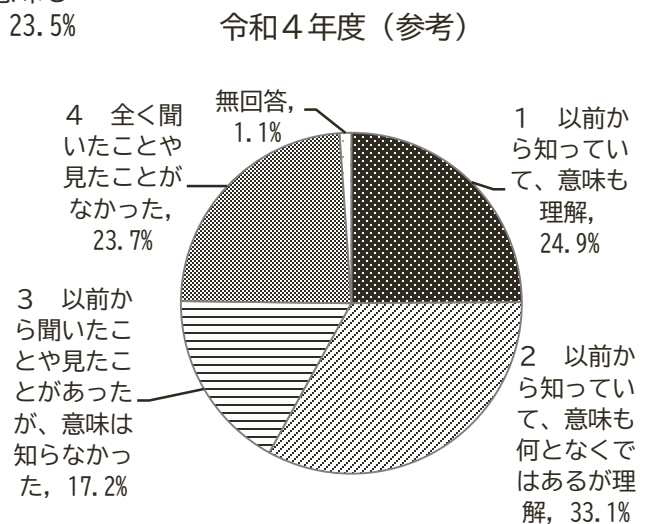
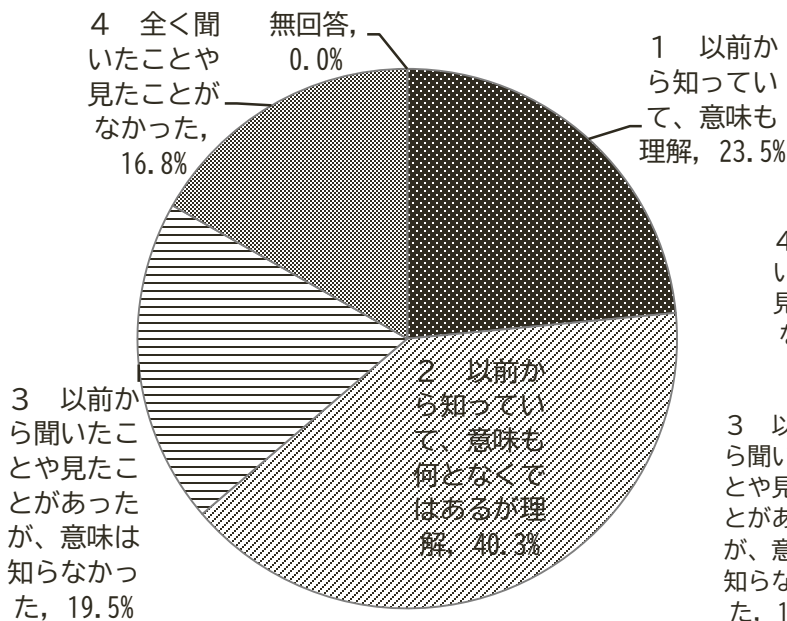
- 人間の多様性を受け入れることだと思う。低年齢時から理解する活動が大事です。
- 家庭教育
- 心の醸成も大切ですが、それと並行して、行動をするためのインセンティブ設計を行うことのほうが、実際の行動につながると思います。
- 学校教育で障害者高齢者等と交流する機会を作る。
- ボランティアではなく仕事として、従事者を育成してはどうかと思う。
- 子供のころからの人権教育（CAP） 人権意識が身につけていけば、人間関係に悩むことなく誰でも安心して暮らせます。
- 回答②のような「特別視」をなくす
- 子供よりも大人の「心の醸成」が必要に思います。
- 病院にボランティアを配置する。困った時は気軽に声をかけられる人をおく。
- 罰則付法律の整備
- 車が一時停止をするなどが当たり前の徹底
- 障がい者や高齢者を手助けするにはボランティアの方には重荷過ぎると思う。なにかあった時責任がもてない。

## 問12

県では、外見からは援助や配慮を必要とすることが分からない方が身に付けることによって、援助や配慮を得られやすくなるよう、「ヘルプマーク」の配布・普及に取り組んでいます。

「ヘルプマーク」について、本アンケートに御協力いただき時点では、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和5年度		令和4年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 以前から知っていて、マークの意味も理解していた	35	23.5%	42	24.9%
2 以前から知っていて、マークの意味も何となくではあるが理解していた	60	40.3%	56	33.1%
3 以前から聞いたことや見たことがあったが、マークの意味は知らなかった	29	19.5%	29	17.2%
4 全く聞いたことや見たことがなかった	25	16.8%	40	23.7%
無回答	0	0.0%	2	1.1%
合計	149		169	



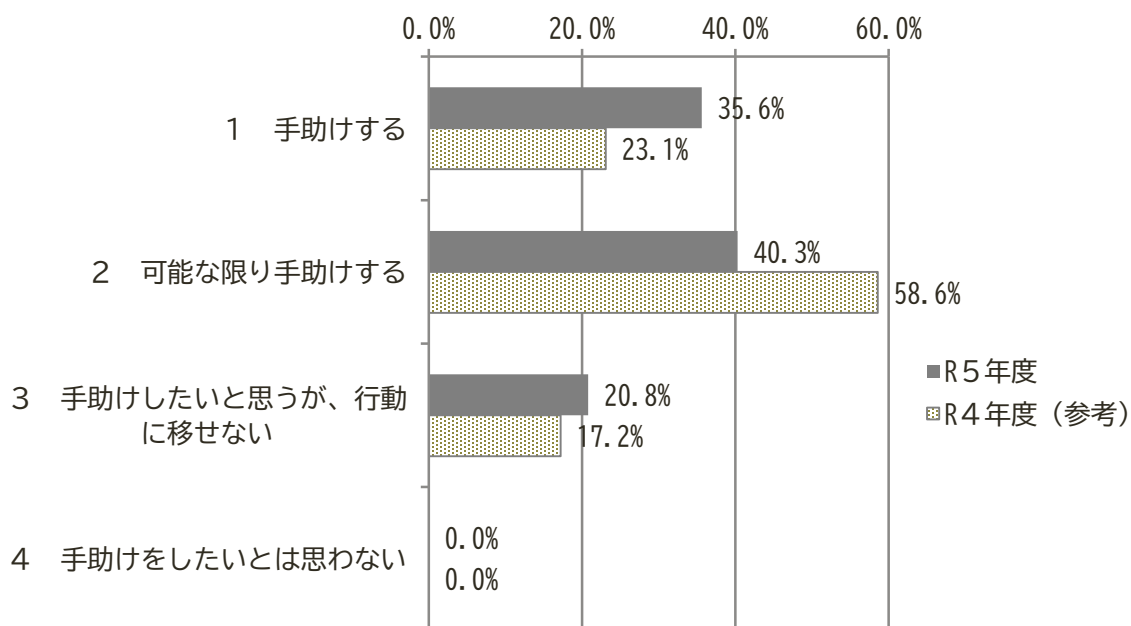
### 【調査結果】

ヘルプマークの意味を「理解していた」、「何となくではあるが理解していた」と回答をした方の割合は、63.8%となり、令和4年度と比較して5.8%増加した。

### 問13

あなたは、外出の際、車椅子の方が段差で進めなくなっていたり、視覚障がいのある方が迷っていたり、外国人の方が駅や道で迷っていたりした場合など、困っている様子を見かけた場合、声をかけて手助けをしますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 手助けする	53	35.6%	39	23.1%
2 可能な限り手助けする	60	40.3%	99	58.6%
3 手助けしたいと思うが、行動に移せない（かもしれない）	31	20.8%	29	17.2%
4 手助けしたいとは思わない	0	0.0%	0	0.0%
無回答	5	3.4%	2	1.2%
合計	149		169	



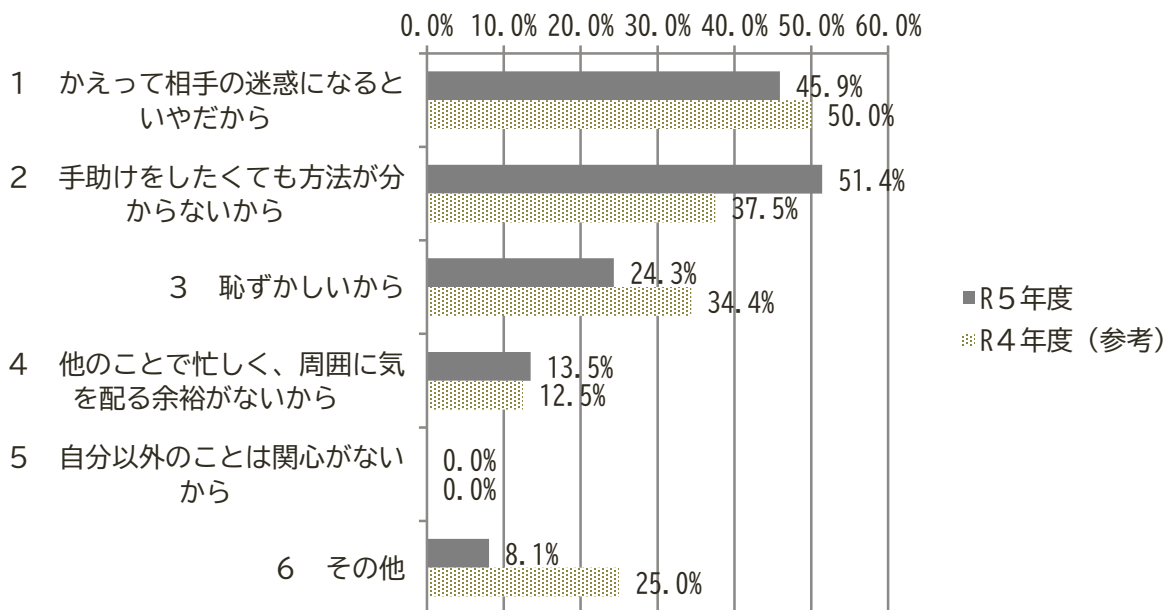
#### 【調査結果】

「手助けをする」、「可能な限り手助けをする」と回答した割合は、75.9%となり、令和4年度と比較して5.8%減少した。

## 問14

問13で③又は④を選択された方にお聞きします。手助けをしない理由は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 かえって相手の迷惑になるといやだから	17	45.9%	16	50.0%
2 手助けをしたくても方法が分からないから	19	51.4%	12	37.5%
3 恥ずかしいから	9	24.3%	11	34.4%
4 他のことで忙しく、周囲に気を配る余裕がないから	5	13.5%	4	12.5%
5 自分以外のことは関心がないから	0	0.0%	0	0.0%
6 その他	3	8.1%	8	25.0%
(回答者実数計)	37	-	32	



### 【調査結果】

「手助けをしたくても方法が分からないから」と回答した方の割合が51.4%と最も多い。次いで、「かえって相手の迷惑になるといやだから」と回答した方の割合が45.9%となった。

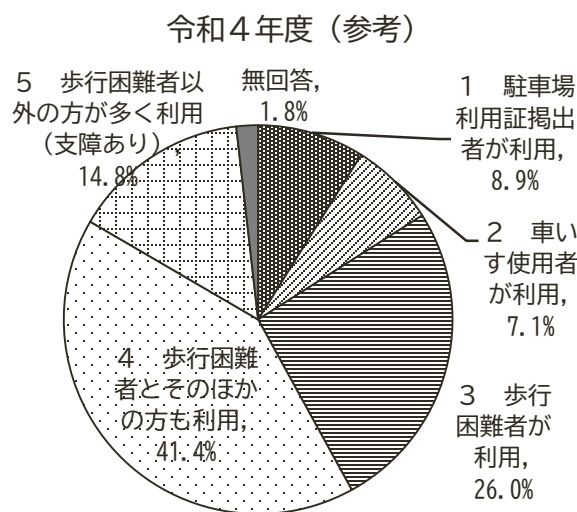
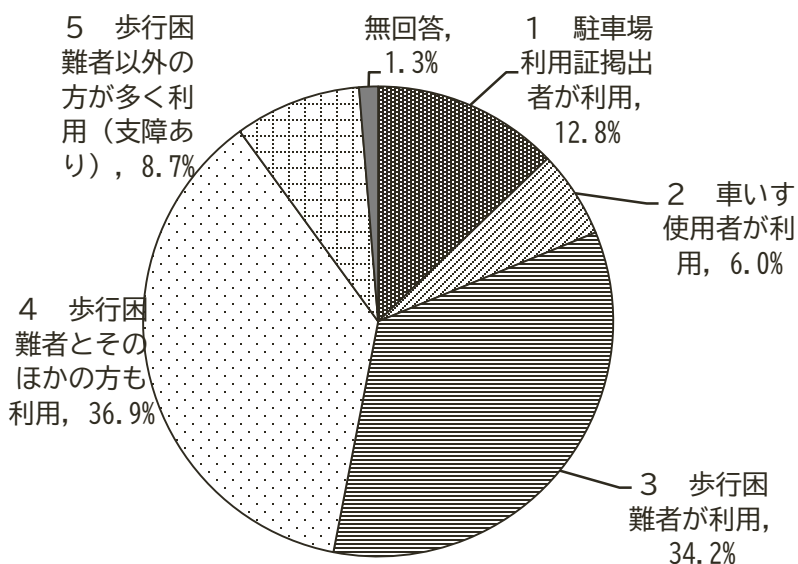
< 6 その他の内容 >

- 自分の体も弱くなってきているから
- 英会話が苦手なため。
- 本人からの声がないとやらなければいけないかもしれない。

### 問15

公共的施設には、車椅子を使用される方や様々な状況で歩行が困難な方向けに「車椅子駐車区画」が設けられています。最近の車椅子駐車区画の一般的な利用状況について、どのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 駐車場利用証掲出者が利用	19	12.8%	15	8.9%
2 車椅子使用者のみが利用	9	6.0%	12	7.1%
3 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊産婦等歩行困難者のみが利用	51	34.2%	44	26.0%
4 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊産婦等歩行困難者とそのほかの方も利用	55	36.9%	70	41.4%
5 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊産婦等歩行困難者以外の方が多く利用（支障あり）	13	8.7%	25	14.8%
無回答	2	1.3%	3	1.8%
合計	149		169	



#### 【調査結果】

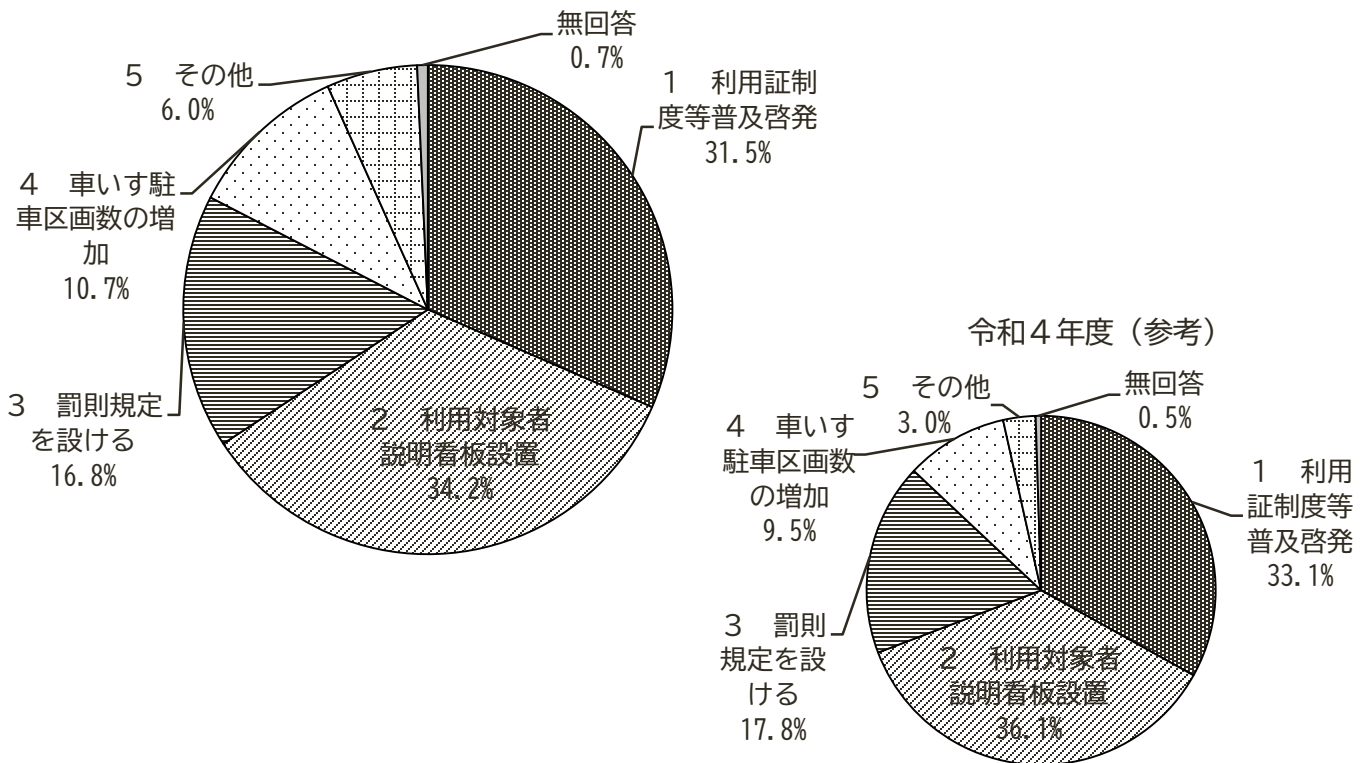
「歩行困難者以外の方が多く利用（支障あり）」と回答した割合は、6.1%減少したものの、「歩行困難者とそのほかの方も利用」と回答した割合と合わせて、45.6%の方が、歩行困難者以外の方の利用があるとしている。



## 問16

車椅子駐車区画を車椅子使用者や高齢者、障がい者、**妊産婦**等歩行困難な方が支障なく利用できるようにするには、どのようにしたら良いと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 利用証制度等の普及啓発	47	31.5%	56	33.1%
2 利用対象者説明の看板設置	51	34.2%	61	36.1%
3 罰則規定を設ける	25	16.8%	30	17.8%
4 車椅子駐車区画数の増加	16	10.7%	16	9.5%
5 その他	9	6.0%	5	3.0%
無回答	1	0.7%	1	0.5%
合計	149		169	



### 【調査結果】

令和4年度に引き続き、利用証制度等の普及啓発と、車椅子駐車区画利用対象者の説明看板の設置を求める声が多い。

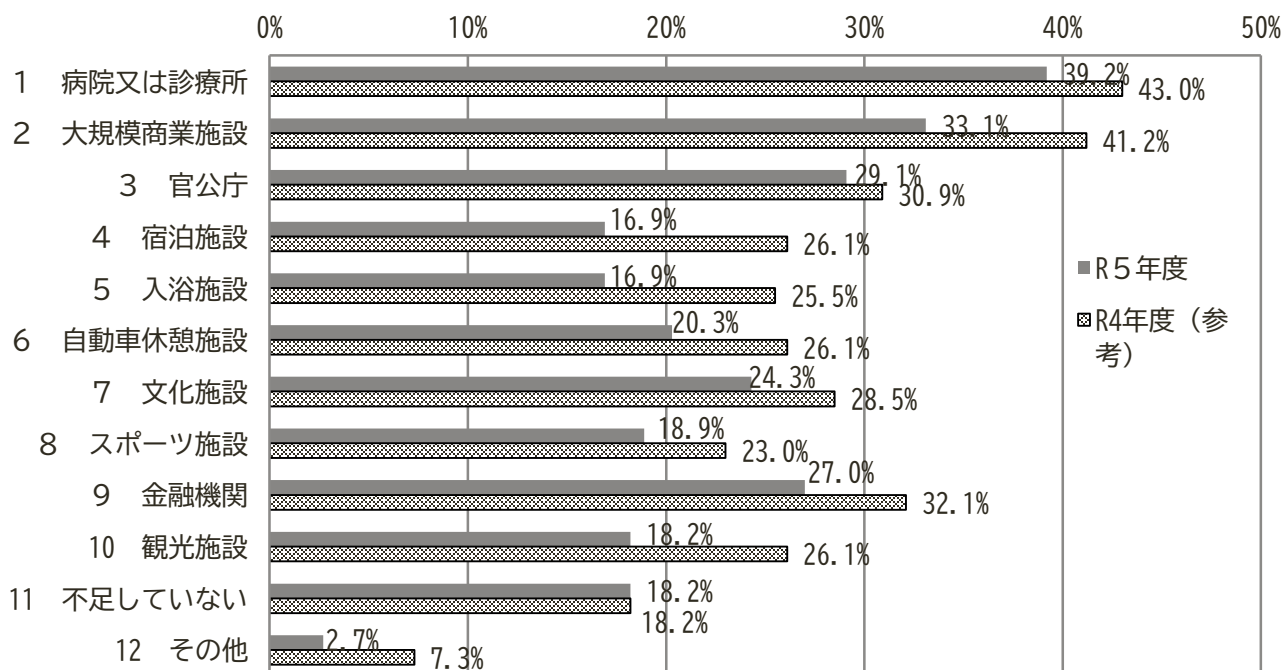
### < 5 その他の内容 >

- 歩行困難な方などには利用証を発行してもらい、駐車区間を利用する際は目につく所へ掲示して利用するようにしたら良い。
- 予約パスコード制にするなど。スマホ社会となり、カーシェアリングなどにヒントがあるように感じる。
- 駐車場の舗装部分を派手にする。駐車してもそこが車椅子駐車区画なのだと明らかにわかるようにする。
- 1や2が理想ですが、一人一人のマナーの意識向上が必要だと思う。
- 可能な限りで予約制の運用にすると支障が少なくなると思います。
- 混雑が少ない時間帯の利用を促すことも持続可能な施設運営のため必要かと思っています。
- 身障者の方は車に取り付けるカードのような物をかけているので、適切な利用だとわかりやすいけれど、妊産婦はそのようなカードが無いため、不適切利用と勘違いされやすい。
- 罰則付きにする。しかもその場で！
- 出入口に近くないところにもあれば、他の人は使わないと思う。
- そもそもその区画に止める人は、モラルが欠如している訳ですから、対策を講じても効果はないと思います。

## 問17

次の施設のうち、車椅子駐車区画が不足していると思う施設を全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	58	39.2%	71	43.0%
2 大規模商業施設	49	33.1%	68	41.2%
3 官公庁	43	29.1%	51	30.9%
4 宿泊施設	25	16.9%	43	26.1%
5 入浴施設	25	16.9%	42	25.5%
6 自動車休憩施設	30	20.3%	43	26.1%
7 文化施設	36	24.3%	47	28.5%
8 スポーツ施設	28	18.9%	38	23.0%
9 金融機関	40	27.0%	53	32.1%
10 観光施設	27	18.2%	43	26.1%
11 不足していない	27	18.2%	30	18.2%
12 その他	4	2.7%	12	7.3%
(回答者実数計)	148		165	



### 【調査結果】

病院又は診療所と回答した割合が39.2%と最も多く、次いで、大規模商業施設、官公庁が多くなった。

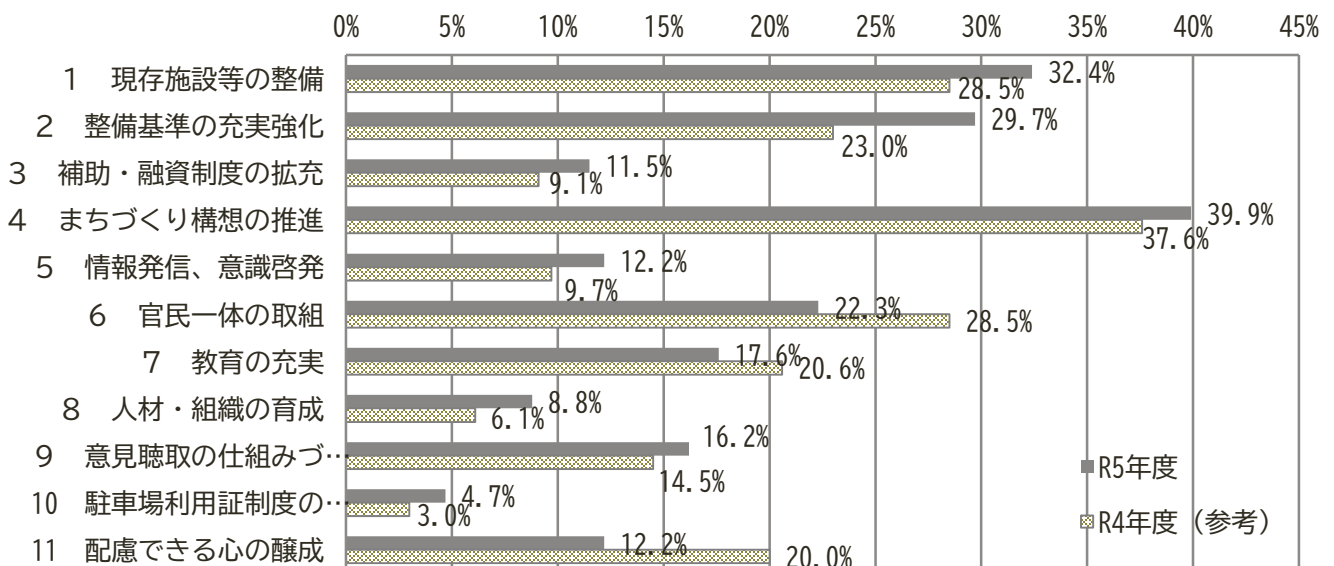
<12その他の内容>

- 零細的な民間の駐車場
- 年に一回ぐらいの外でのイベントなど！先日、福田こうへいの大間ブルーマリ  
ンフェスティバルに行ったときはかなり車いすでいかなければならないぐらいの  
会場でした。他県ですがそのようなイベントごとなどは県内も今後増えると思  
います。会場へのセッティングなどは車いす利用者に利用しやすい環境を作ってい  
だきたいです。
- 車椅子駐車区画に停めるイコール車椅子使用者とは限らない。普段は車椅子を  
使っているが、当日の買い物は家族の付き添いがあり、必要に応じて車椅子を使  
うことがあるかもしれない・・・こういった方が車椅子駐車区画に停めると、  
「健常者が停めている」と非難される。見た目では障害者か健常者か分からない  
場合もあるので、むやみに非難はできないと思う。

## 問18

今後、誰もが暮らしやすい「ひとにやさしいまちづくり」を進めていく上で、施策として特に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを2つ選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの）

	令和5年度		令和4年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 現存施設等の整備	48	32.4%	47	28.5%
2 整備基準の充実強化	44	29.7%	38	23.0%
3 補助・融資制度の拡充	17	11.5%	15	9.1%
4 まちづくり構想の推進	59	39.9%	62	37.6%
5 情報発信、意識啓発	18	12.2%	16	9.7%
6 官民一体の取組	33	22.3%	47	28.5%
7 教育の充実	26	17.6%	34	20.6%
8 人材・組織の育成	13	8.8%	10	6.1%
9 意見聴取の仕組みづくり	24	16.2%	24	14.5%
10 ひとにやさしい駐車場利用証制度の普及	7	4.7%	5	3.0%
11 ヘルプマークの普及をはじめとする配慮できる心の醸成	18	12.2%	33	20.0%
12 無回答	1	0.7%	4	2.4%
（回答者実数計）	148		165	



### 【調査結果】

「まちづくりの構想の推進」が39.9%で令和4年度に引き続き最も多くなったほか、「整備基準の充実強化」が6.7%増加するなど、ハード面の関心が高かった。

## 問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 県民全体でサポートするよう意識を高めることが重要だと思います。
- 一緒に暮らしている姑は「ひとにやさしい駐車場」利用の許可を頂いて利用しています。以前に比べ、どの施設にも駐車スペースや貸し出し車椅子が準備されていて、家族での余光や宿泊がしやすくなっていてありがたく思っています。県外に出かけると専用駐車場に関係ない車が止まっていることも多いのですが、県内ではそのような車も減っていると感じています。岩手県民のまじめな県民性を促すべく、引き続き県政のリーダーシップによる地道な啓発活動をお願いします。
- 公共施設の障がい者や妊婦に駐車スペースを設置する場合、利用する方の意見を聞いて作り、それを県内で統一するよう指導して欲しい。ばらばらで狭いところが多い。改善して欲しい。
- 「日本人の意識調査」によると、高齢者の社会活動意識が低下しているそうです。企業のソーシャルビジネスの高まりにより、企業に就業している時から社会貢献に関する充実感の違いに表れていると思います。高齢者が定年後も就業する事に抵抗感がなくなっており、また女性に関しても介護や子供支援の業務に従事している人も少なくない。社会システムとしての「まちづくり」プログラミングの必要性が出てきたと思います。
- 夫も手帳を持っていましたが、駐車場がありながら止められない時が多かったです。普通の方が停めておくんです。迷惑しました。
- 今回の質問はバリアフリーのことばかりの質問が多く感じました。ひとにやさしいまちづくりはバリアフリーも大事ですが自転車を利用する人のことも考えてほしいです。たとえば自転車置き場が少なかったり利用する場所から遠かったりします。今回のテーマは大変難しく感じました。
- 高齢者もある種の障がい者なので、高齢者用の駐車場があってもいいかと思う。
- これから建設される公共的施設などは環境整備の基準がとりくまれるかと思いますが、既存の物に対しての工夫が必要ではないかと思います。ソフト的なことに関しては、私達も学校教育等で学んできたはずなのに年齢が上がるにつれて自己的な考えになっていくようで、もう一度考えたいと思います。

## 問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 問18で「2つ」とするのは難しい。「2つ」とする意味は？
- 誰が使ってもいいけれど、優先すべき方々へご配慮くださいというのが本来であろうと思う。健常者とそうでない人々を分け隔てるシステムであるなら要らないと考える。わかりあうこと。想像すること。お互いにおかげさまの毎日であること。啓蒙活動をするとしたら、もっと当事者の声を日常的にアナウンスしてもよいのではないか。媒体はラジオ。ラジオによる啓蒙活動にわたしは可能性を感じる。ひとの声のシャワーはスツと心にしみるから。
- 年代を問わず生涯教育の視点から、それぞれの年代に応じた教育啓発が必要である。（明日は我が身を前提として）
- 具体的に対象となる「ひと」が身近にいるとその人が困らないように、その人が使いやすいように・・・etc.とやさしいまちづくりとは何かを具体的にイメージしやすいと思います。ですので、障害者や高齢者と実際に触れ合う機会を作る事で、「あの人が〇〇しやすいように・・・」とアクションにつながりやすくなるのではないかと思うので、交流づくりを行う事がとても大切なのではないかと思います。
- 生活に余裕がない社会だと何かとギスギスしてしまう。高齢者だから優しくとかではなく、お互い様という気持ちや恩送りみたいな考え方が浸透し、心に余裕がある社会になれば、助け合いは自然と出来てくると思います。子供は純粹です。  
大人がルールを守らない現実が、負の連鎖を作り上げているので、子供ではなく大人がまずはしっかりしなければいけないと思います。
- 「お互い様」の気持ち
- 自分が高齢になって、他の手段がないので運転して公共施設にいつているが駐車場から入口までのアプローチが長く敷石がゆがんだりしていて車椅子でなくても足元が危ないと思うことが多くなった。
- 高齢になってトイレが近くなってきている。金融機関などで待たせられると利用できるトイレがないので困るときがある。

## 問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 古い建物について整備されにくい環境下にあると思うのですが、少しずつでも整備できるよう各関係機関で取り組みを継続して行ってください。
- 車椅子の方が外出しなくても、サービスが利用できる施策が必要かと思いません。

PCでできる行政サービスを増やすなど、デジタルの力を使って、ご自身でバリアを解消できる方には自分で解消してもらえると感じました。人手不足が深刻になっている中では、施設を運営したり、作ったりする方に過剰な負担がかからない方法を障害を抱えている方と一緒に考えていく姿勢が大切なのではないでしょうか。

- 自分の住んでいる地域では、お互いに声がけなどして出来る範囲でお手伝いしています。自分が高齢者なのでスーパー商業施設などで「お先にどうぞ」など親切にしています。
- 以前両親の介護で、病院の送迎、買い物の付き添い等駐車場、トイレ等で不便を感じる事が多々あった。現在は色々な施設で整備されバリアフリー等便利になってきていると思うが、まだ足りない所があると思う。皆が自由に外出できる環境が整ってほしい。
- 震災後に新しくできた道路や建物はユニバーサルデザインがしっかりしていて利用しやすくなったと思う。しかし、スーパーでは、入口に車イスの貸出しはあるが、通路に段ボールが置かれていたり、配置の向きによっては車イスで切り返すのが難しかった。普段、不自由に感じたことはなかったが、ケガのため一時期車イスを使用していて、買い物がストレスに感じるほどだった。また、ひとにやさしい駐車場については、母親が病気になり、車イスを使うことになった時に、社協や市役所の福祉課で様々な手続きに行くことはあったが、ひとにやさしい駐車場を利用するための手続きについて、こちらから調べて質問しないと教えてもらえなかったのが残念だった。パンフレットなどで、介護認定を受けていたり、歩行困難な病気等がある人や、その家族に対して、利用方法（手続きの仕方）を教えていただけたら、とても助かると感じました。他人事ではなく、全ての人が自分事として考えられるようになるといいなと思います。



## 問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 特別なことではなく、自然な形で手を差しのべられたらいいと思います。
- 東京に暮らす友達がALSを発病したが、24時間ヘルパーがいて介護してくれたり、一人暮らしマンションでも日常生活にそれほど不便していないようだ。これが地元の岩手沿岸北部であつたら家族に負担なく日常生活を送れるだろうか。また、職場のパートさんは医療ケアが必要な幼児を抱えているのに保育所の受け入れを全て断られている状態で満足に働くこともできていない。月に一度宮城県の病院まで通院しているそうだ。つまり岩手沿岸北部から出ていかない限り、貧困から抜け出せないということ。沿岸北部における医療や福祉はなおざりにされていて、岩手県中央から切り捨てられていると地域の多くの人が憤りを感じているのは事実です。沿岸北部の裕福な人は八戸市の医療や福祉を選んでいて、八戸市との結び付きを望んでいます。
- 三陸鉄道久慈駅ホームの登り階段は高齢者にはきつい。重いスーツケースを職員が「お持ちしましょうか」と声をかけてくれて上まで運んでくれたときは助かりました。階段下に職員を配置している事業者の配慮が嬉しい。
- すべての人が不自由な生活とならない様、設備、教育にさらに努めていく事が必要と考えます。
- 駐車場の使い方は、解決方法が本当に難しいと思いますが、やはり、何らかの解決策を考えて行かなければならないと思います。子供の教育からの教育が大切ですね。実際に体験させて、学ばせることが必要でしょうか。社会科見学等の際に、車イスを使うとか、駐車区画の理解を進めるなどして、家族で出掛けた時に、もしも親御さんが間違っただ行動をとった時に、注意できる子供に育ててほしいです。
- 昨年度も書きましたが、歩道の視覚障害の方のための誘導帯？が、壊れていたり、雨の日には滑りやすい事について、全く改善されていない事にガッカリしています。このアンケートがどのように活用されているのか、疑問に思います。
- すごい事は出来なくても一人一人がほんの少しでも人を思いやる気持ちがあれば優しさに溢れる気がします。

## 問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 車社会の岩手（盛岡）ですが、公共機関のバス、電車の利用でよりバリアフリーへの感覚がうまれると思う。いつもバス利用だが降車時のステップが高く感じる。
- （20の（4）について）健常者の項目がないのが偏見と思う。
- 人情味豊かで声を掛け合える社会にすることが一番だと思う。
- ボランティアや行政のみでは回らないであろうし、そばの人が手助けしやすい社会になると良いと思う。
- 弱者の立場に立ったまちづくりが出来たらと思います。当事者の方たちからどうしてほしいか直接話を聞くのもいいのではと思います。
- 高齢で歩行が難しい母がおり、買物や手続きなどで車椅子を借りますが、どれも大きく重たい古めかしい車椅子ばかりです。あれば良いではなく、軽く使いやすい車椅子への更新をしてほしいものです。私自身も手帳を持っていないものの障害がある身です。ヘルプマークは知っていますが掲示することにどこか引け目を感じるものです。
- 利用者の意見を聴く機会を増やした方が良いのではと思う。
- 小学校、中学校、高校でこういった授業があるといいと思いました。
- 情報発信、意識啓発活動をする際は県内に限らず県外も含めて広く参考事例等を紹介して啓発活動につなげられたらどうでしょうか。
- 何度も意見している気がします。色々ありますが奥州市役所の周辺の古い道路狭く欠損している側溝の穴が杖が入って危険、市役所1 FWCに身障者用のWCがない！！どころか洋1つ和式ですよ！！健常でも今時できませんから、ひざが痛くて。
- 学校施設で全ての校舎、体育館のトイレの洋式化を実現することで小中高校生の生活環境を整えることが先決。そのうえでできれば各校に身障者用オストメイト対応トイレの設置をすべき。子供たちの意識づけが将来のまちづくりにつながっていくと思う。

## 問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 御題目で終わるのではなく、県民一人一人が自覚することが必要だと思います。現在、知事選挙と県議会議員選挙が行われています。その選挙公報を読んでいますと、例えば、「障がいを持つ方々に優しいまちづくり」を目指しますと書いておられる現職議員の方がおられます。選挙公報ですが、これが是認されるような社会であってはならないと思います。障がい者は自分で望んで障がい者になったものではありません。そのことを肝に銘じて議員活動してほしいです。タレントの柳原可奈子さんのことをご存じでしょうか。お子さんがダウン症候群です。ダウン症候群の子供さんの集まりに出かけています。いつも涙がでてくることばかりですが、テレビ出演時と同じように振る舞ってくるそうです。母親として苦しいことばかりだと思います。私たちはこのことを忘れているのかもしれませんが。
- 今回、県知事や県議の選挙がありますが車いすの方の送迎も市町村で行っているとのことで県民に寄り添ったことをやっておりますこれこそ人にやさしい街づくりかと思います。なかなか普段の生活での自分が人にやさしくできる行動をする機会がありませんが、自分が困った時に見知らぬ方にでも親切にされることはホントにうれしいものかなと思ってます。高齢化が進む中で車いすなどの利用も多いと思います。うまく活用して快適で困らない生活をしていきたいと考えております。
- 自身もヘルプマークを持っているのですが、まだ、東京などに比べて認知度が低いので認知度の向上をぜひしてもらいたいです。
- 高齢者が増えるのは仕方ない事なので、車がなくても異動できるよう、市営などでバスを循環させてみるといいのではないのでしょうか。「スーパーを巡れるバス」とか、年に関係なく乗れるといいなと思います。
- 健康な人は気づかないで生活している。直接障がい者や高齢者等から話を聞き、問題点を解決してほしい。
- まわりの人間が先ず知る気付く所からスタート。一方だけの問題、課題だとしても解決するには双方の協力が必要不可欠だ。

## 問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 市内では身体の不自由な方への駐車場など台数は限られていますが、確保はされていると思います。健常者が駐車しているのは自分自身あまり見た事がないので、マナーは守られているのでは？と思います。小学校、中学校でひとにやさしいまちづくりに関する授業を取り入れるなど子供たちへの思いやりのある社会づくりについて考えるきっかけを作ってほしいです。
- 利用できる人の態度に問題がある場合もある。お互い思いやる心が必要。
- 子供のうちから教育の中に組み込むことが必要だと思います。
- 海外からの観光客に対応した「暮らしやすいまちづくり構想」を策定してほしい。
- 車を持っていないので買い物にキャリーケースを利用しています。歩道と車道の段差に突っかかります。車椅子やベビーカーでも突っかかるだろうなあと思いながら歩いています。宮古の県道でエコ素材なのか、もやっとした点字ブロックがありますが、ブロックは色も大切だと聞きました。ハッキリした色のほうが視力の弱い方に良いと。あれだと意味ないのでは？あと点字ブロックにかかっている木の枝、よろしく願います。
- 何故こういうことが問題になるのか、いつも疑問に感じます。どんな恵まれた時代になっても、こういうことが議論されなければならない時代は悲しいことだと思います。何故、考えるまでもなく当然の行動として、優しい思いやりのある行動ができる世の中にならないのかと思います。
- 様々な分野で障がい者・高齢者の配慮が取られている国その情報を収集・参考にした方が良い。
- 健常な有識者も結構だが、もっと障がい者や高齢者及びサポーターが参加して構想を練っていく会が必要で他県が注目して視察に来るぐらいの利便性のあるまちづくりを目指していくべきだと思います。
- お互いに思いやりの心を持てるように、相互理解の推進に向けた交流する機会を増やしていけるといいと思いました。

## 問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 公共物施設又は道路・策・整備の充実の強化と地域で取り組む人材の育成も重要かと思います。
- 所々に自由に休む（腰かける）イスがほしい。腰痛もちの人は助かります。
- バスの乗降口の段差が辛いのでノンステップバスが増えるといいなと思います。
- 飛鳥マンションのところのバス停が冬になると日影になって雪が氷になって危険だと思うので、主要なバス停の除雪もしてほしい。
- 一般の道路の除雪ももう少しうまくやってほしい。
- 道路の穴などもずっとそのままのことが多いので、きちんと直してほしい。
- 40年前、イギリスへ語学留学した際、石だたみの道を車イスを利用したお年寄りが介護者と一緒に刊行していた。車イスの機能が違うのか、普通に一般客と変わらず楽しんでいる姿を見て、街のゆったりとした作りも関係していると思った。日本は丁寧で優しい対応はしていると思うけれど、ゴミゴミとした街中で、日常を楽しむのは、障がいを持った人、お年寄りはなかなか難しいと思った。
- ヘルプしたくても、どうしたらよいか解からないので、テレビ等で車イスのあつかいなど教えてほしいと思う。
- もうすこしわかりやすい標識（ピクトグラム、マーク）を使用し、直感的に分かるようにしてください。
- 手助けをしたくてもなかなか行動にうつせない人は多いと思う。
- 実際にヘルプマークをつけた方の、とある行為に対しあまりの力の強さに数人でも制止出来ず（階段の踊り場で起きたことなので）自分が引きずられて階段から落ちそうになったことがある。相手は制御出来得ない行動なので、自分がどうにか持ち堪えられるが逆にパニックを強く引き起こさせてしまうのではないかと不安になったことがある。しかし、正しい知識と信念を持っていれば誰でも対処できる位置にあることを忘れないでいきたいです。
- 自治体や民間、他のさまざまな分野、地域全体がめざさないと、部分的な状態で終わってしまう。先進を参考にして、高齢になっても仮に不自由なところがあっても、暮らしやすい歩きやすい、取り組みを着実に進めていくことが大切だと思う。

## 問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 2、3世帯住居の推進、人との関わりを多い生活環境
- 比較的新しい公共施設（ハード面）はバリアフリー化は構築されていますが半面、岩手県内にはまだまだ古い公共的施設、建造物が多いのが現状です。当然一部バリアフリー化なるも、段差解消、エレベーター未設置、トイレ不足、案内表示の不足未設置等々多くあるので現状把握及び改善が必要におもわれます。優しい街づくり（ソフト面）では、具体的事象に基づいてきじゅつします。エレベーター未設置、市公共施設2F会議室に車椅子で来館出席されました。会場スタッフ2人で車椅子ごと階段を上ろうとしていましたが、大変な様なので施設臨時職員が手助けに入ろうとしました所、施設の職員（指定管理責任者）は手助け介助は不要、事故が発生した場合責任問題になる、手助けしないでくださいとの事・・・人を思いやる、人としてどうなのか（ひとにやさしいまちづくり）・・・疑問が生じた。  
以上これは一例の照会でした。極論を記載すると公共施設利用来館時には階段昇降時の手助け介助は一切できません等表示しては？（不評を飼うでしょう）結論は利用者（弱者）に思いやりを持った公共施設の運用（運営）をお願いしたいものです。
- バリアフリーの施設を多くして、情報を発信してほしい。（県、市のHPの記載が少ないし、最新情報に更新されていない）